

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

危険因子も踏まえたアルツハイマー病の 治療標的の同定と治療薬の開発

分子基盤研究部 標的治療薬開発室

篠原 充 室長

平成30年12月13日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

アルツハイマー病に対してアミロイドβやタウに対する治療薬の臨床治験が行われているが、頓挫している治験も多く、今後の予防・治療戦略についてはまだまだ不明である。そこで我々は同研究部の里直行部長や福森亮雄 認知症病態解析室長とも連携しながら、疾患の原因と考えられるアミロイドβやタウとともに APOE や糖尿病などの危険因子にも着目し、剖検脳や、動物モデル、臨床データ、細胞モデルを基に新規標的の同定や治療薬開発をすすめようとしている。

本報告会では、これまでに得られつつあるデータとともに今後の研究計画について紹介、討議したい。